

クマとの共生 政策は？

由利本荘市 西目高校生徒、市長に質問

由利本荘市の西目高校生徒と湊貴信市長による「語る会」が、同校で開かれた。2年生約90人が参加し、クマとの共生や人工知能（AI）・デジタルトランスフォーメーション（DX）を活用した市民サービスなどについて質問した。

生徒は「クマが当たり前に現れるようになってきた中で、クマと人間が共生するためにどのような政策を行っているのか」と質問した。湊市長は、「草木を刈り払ったり、カキヤクリなどの樹木を除去したりして緩衝地域をつくり、クマが身を隠す場所をなくして出てこない環境をつくるのが大事」とし、2026年度には県の政策の一環で、市内にも緩衝地域をつくるべく予定と説明した。

このほか、AIやDXなどのように市民サービスを向上させているのかとの質問については、市のホームページにAIチャットボットがあり質

問できることや、行政サービスを車で出張して行う「移動市役所」などを紹介。生徒からは「自然災害が発生した際、避難所の混雑状況などを教えてくれるアプリがあれば良いと思う。そういった対策はあるのか」との意見や質問が上がった。企業誘致などについて聞く生徒もいた。

参加した岡田隼さん（17）は

「今まで知らなかった市の取り組みがたくさんあり勉強になった。地域のことを考えるきっかけにもなった」と振り返った。語る会は1月22日に開催された。

（神谷紗耶加）



西目高生と湊市長が意見交換した「語る会」